

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01596

研究課題名（和文）非認知症高齢精神障害者の在宅生活を支える福祉と医療の連携モデル開発と有効性の検証

研究課題名（英文）Model development and evaluation for interprofessional collaboration between welfare and medical professionals to support the home life of older adults with mental disorders without dementia

研究代表者

大西 次郎（OHNISHI, Jiro）

大阪公立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：20388797

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、在宅下に非認知症高齢精神障害者の生活支援を担う、福祉職と医療職の連携を推進する実践モデルの開発と検証を試みた。その結果、以下を得た。1) 認知症以外の精神障害の併存に関する福祉職の理解と対応が重要であり、精神保健福祉士による、医療職との架橋役割が評価される。2) 医療機関内から機関間にわたるメソレベルのコミュニティソーシャルワークと、ミクロレベルの家族内の関係調整がチームアプローチの鍵になる。3) 触法高齢者の増加に伴い刑事司法との接点が求められ、職能団体による教育面の関与が望まれる。4) 実践場面における上世代への介護の視点とならび、下世代への養護の視点が在宅生活の安定に結び付く。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門職連携は双方向的なアプローチであり、生活支援と医療に値打ちの差はない。むしろ非認知症高齢精神障害者の容態は、漸次進行性の認知症者と比べてコントロールしやすい面もあり、福祉職による円滑な生活支援がQuality of Lifeの鍵を握る。

非認知症高齢精神障害者にはしばしば、定期的な通院・服薬が求められる。本研究を通して非認知症高齢精神障害者における医療職の関与は、医学的管理から離れられない重しというより、医療を包括した生活支援の大切さの表れであるという共通認識をチームに育むことができ、在宅生活を支える福祉職と医療職の対等な連携の促進へ寄与すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed and evaluated a practical model for interprofessional collaboration to support the home life of older adults with mental disorders without dementia. The results highlighted: 1) the importance of welfare professionals' understanding and appropriate response to the presence of mental disorders, not including dementia, as well as the significant role of mental health social workers as a bridge to medical professionals; 2) meso-level community social work spanning within and between medical institutions and micro-level family relationship adjustments as key to team approaches; 3) the necessity of engagement with the criminal justice system and involvement in educational aspects by professional organizations to address the growing number of older adults in conflict with the law; and 4) the possibility of the perspective of nurturing the younger generation, along with the perspective of caring for the older generation, contributing to the stability of home life.

研究分野：社会科学

キーワード：多職種連携 協働 認知症 精神障害 在宅 医療福祉 医療ソーシャルワーク 精神保健福祉

1. 研究開始当初の背景

高齢精神障害者の生活の場として在宅が重視され、65歳超の介護保険優先適用によって訪問介護を担うホームヘルパーや介護福祉士（訪問介護員等）と精神障害者が接する機会は大きく増えた。介護保険の利用は原則的にサービス提供者と受給者の契約に基づく。認知症の進行には一定の時間経過があるため在宅認知症高齢者（以下、認知症）の意向を把握したり、認知症カフェの普及等で家族全体を支えたりする仕組みが整いつつある。しかし、青壮年期に発症した統合失調症者やうつ病者は配偶者・子をしばしば持たず、自身も人とのかかわりを避けて暮らしてきたため、老年期に至って適切な福祉サービスが届けられにくい傾向がある。未治療のまま長年ひきこもり、ごみ屋敷や親の死亡で顕在化する不安症（神経症）やパーソナリティ障害の高齢者事例もみられ、キーパーソンの欠如・乏しい情報といった背景から住民や行政に与える影響は認知症者に劣らず深刻である。

これら在宅高齢精神障害・非認知症者（以下、非認知症高齢精神障害者）への対応は、地域の保健師や診療所、精神科病院などの医療機関・保健医療職が主に担ってきた。介護保険サービスと、自立支援医療による精神科デイケアや訪問看護は併用できる場合があるからである。ゆえに介護保険制度のもとで医療職との調整を担う介護支援専門員は、利用者の病状について主治医と適切に情報交換し、居宅サービス計画を作成せねばならない。

しかし、地域包括支援センターの社会福祉士や介護支援専門員には非認知症高齢精神障害者に関する知識や経験が不十分で、訪問介護員等を含む福祉職全体のノウハウが足りない一方、生活支援の専門性に対する医療職の理解も乏しい。したがって、非認知症高齢精神障害者に対する福祉職と医療職の効果的な連携の必要性が指摘されて久しく、在宅下の職種をまたいだ支援環境の整備は喫緊の課題なのである（図）。

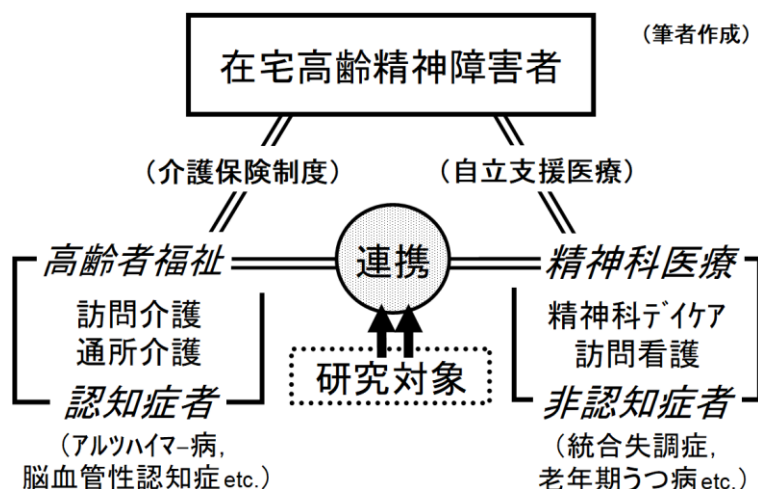


図 在宅高齢精神障害者を支援する地域医療-福祉協働

2. 研究の目的

訪問介護・看護を受ける在宅高齢精神障害者が、地域移行/地域定着支援の広がりから増えている。ただし、高齢精神障害者のうち統合失調症や老年期うつ病等を有する非認知症高齢精神障害者には、認知症者と比べて上記のように適切な福祉サービスが届けられにくいかたわら、生活の維持に医療が少なからず関与する。

よって、非認知症高齢精神障害者の地域生活を支えるためには、福祉職と医療職の的確な連携が認知症者にもまして重要である。そこで本課題では研究の目的を、非認知症高齢精神障害者の在宅場面における福祉と医療の連携モデルを認知症者と対比のうえ構築し、非認知症高齢精神障害者支援に携わる福祉職の資質向上と、その専門性に関する医療職の理解を導くことに置く。

3. 研究の方法

(1) 2020（令和2）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2020（令和2）年度は精神科訪問介護に携わる事業所の訪問介護員等、ならびに精神科デイケアに携わる診療所の看護師等へ、福祉職と医療職の連携における現況ならびに課題の聞き取りを Zoom 等のクラウド型 Web 会議システムを用いて行った。

(2) 2021（令和3）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2021（令和3）年度は認知症者に訪問介護を行う事業所の訪問介護員等、ならびに認知症者へデイケアを行う介護老人保健施設の看護師等へ、福祉職と医療職の連携における現況ならびに課題の聞き取りを行った。

(3) 2022（令和4）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2022（令和4）年度はここまで得られた認知症者および非認知症高齢精神障害者の別をわきまえた連携面の現況と課題より、非認知症高齢精神障害者の在宅生活支援に現れやすい問いを抽出した。

(4) 2023（令和5）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2023（令和5）年度は新たに見出された論点を整理し、連携モデルとして集約した。

4. 研究成果

(1) 2020（令和2）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2020（令和2）年度は精神科訪問介護に携わる事業所の訪問介護員等、ならびに精神科デイケアに携わる診療所の看護師等へ、福祉職と医療職の連携における現況ならびに課題の聞き取りを Zoom 等のクラウド型 Web 会議システムを用いて行った。その結果、以下を導いた。

非認知症高齢精神障害者に関し、統合失調症（地域ケアリング 22(4), 58-62）を代表とする精神疾患の併存についての福祉職の理解と対応が重要であること、そうした精神医療との架橋役割において医療職と協働（精神科治療学 35(11), 1261-1267）する精神保健福祉士に存立意義が認められ（精神保健福祉学 8, 27-37）、養成システム上の精神医学教育が再評価される（地域ケアリング 22(9), 86-91）ことを確認した。一方で、そのような精神保健福祉士の固有性が、解消と強調の狭間にある（地域ケアリング 22(12), 72-77 / 23(1), 68-73）近況にふれた。

発展的な論点として、福祉職（地域ケアリング 23(3), 58-64）と医療職（精神科治療学 36(3), 319-326）がともに、地域・在宅において累犯高齢者・知的障害者ならびに触法精神障害者の社会内処遇に携わる機会が増えており、そのなかで司法を交えた連携のあり方が課題となっている点が見出された。

高齢精神障害者のなかでも統合失調症や不安症（神経症）などを抱える人は、中年～初老期に至って往々に孤立し自己表現も不得手であって、やはり在宅下において適切な福祉サービス

が届けられにくい例が少なくなかった。引き続き、非認知症高齢精神障害者に着眼した福祉と医療の連携につき、クライアントと専門職双方の視座から研究の進捗に努めていく。

(2) 2021（令和3）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2021（令和3）年度は認知症者に訪問介護を行う事業所の訪問介護員等、ならびに認知症者へデイケアを行う介護老人保健施設の看護師等へ、福祉職と医療職の連携における現況ならびに課題の聞き取りを行った。その結果、以下を導いた。

非認知症高齢精神障害者に関し、認知症者にもまして不安症（神経症）やパーソナリティ障害（地域ケアリング 23(4), 90-93 / 23(10), 68-75）の併存についての福祉職の理解と対応が重要であること、とくに相談に乗りながら一緒に困難を緩和し、地域・在宅の生活のなかで回復を目指す姿勢の不可欠を確認した。また、専門職の視座から2020年度の発展的な論点であった累犯高齢者・知的障害者支援における、社会福祉士の関与と独立にふれた（ソーシャルワーカー 20, 41-50）。

コロナ禍のもとソーシャルワークが対個人のかかわりに重きを置くなか、ミクロに収斂させずマクロにも傾倒しない医療機関内 / 機関間をまたぐメゾレベルの実践が、福祉職と医療職の援助姿勢の違いを生かす形で連携に資すると考えられた（地域ケアリング 24(2), 40-44）。さらに、精神保健福祉士（地域ケアリング 24(1), 48-53）や養護教諭（日本養護教諭教育学会誌 25(2), 1-2）といった、対象をより具体化させた専門職をとりまく多職種モデルが、非認知症高齢精神障害者の在宅生活を支える福祉と医療の相互理解に寄与する可能性を認めた。

発展的な論点として、ここまで面接調査には新型コロナウイルス感染症の蔓延を背景にZoom等のクラウド型Web会議システムを併用してきたが、質的研究にもたらずオンライン型と対面型の方法上の異同を検討する必要性が見出された（地域ケアリング 23(12), 64-70）。

(3) 2022（令和4）年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2022（令和4）年度はここまで得られた認知症者および非認知症高齢精神障害者の別をわきまえた連携面の現況と課題より、非認知症高齢精神障害者の在宅生活支援に現れやすい問いを抽出した。その結果、以下を導いた。

理論面における学際性と、実践面における地域での役割開放は、いまやメンタルヘルスケアの主潮である（地域ケアリング 25(3), 90-94）。まず、医療機関で認知症者と向き合う段階において、福祉職は支援の至らなさを覚えつつも霧散させる「とまどい」を抱く（保健医療社会福祉研究 30, 65-75）。こうした感情を在宅下の多職種連携の深化につなげる手段として、福祉職と医療職共通の質が担保された研修プログラムの活用があげられる（日本認知症ケア学会誌 21(4), 564-575）。

次いで非認知症高齢精神障害者に関し、かねての統合失調症における医療機関との連携（社会事業史学会創立50周年記念論文集 第2巻, 427-457）とともに、近年は触法高齢者の増加に伴う刑事司法との連携（ソーシャルワーカー 21, 45-58）が地域ケア上のテーマとなり、職能団体による教育を通じた関与が望まれる。また、実践場面における上世代への介護の視点（精神科治療学 37(4), 427-434, 地域ケアリング 24(4), 56-61）とならび、下世代への養護の視点（地域ケアリング 24(10), 98-104）が在宅生活の安定に結び付く。

昨年度からの発展的論点である、オンライン型と対面型の研究方法上の異同（地域ケアリン

グ 24(11), 102-107) にもふれ、加えて多職種連携を実践面のみにとどまらず、社会政策や国家資格制度から築かれる「政策を通した連携」面から検討する必要性を提起した(地域ケアリング 25(1), 72-79)。

(4) 2023 (令和5) 年度

非認知症高齢精神障害者に向けた福祉と医療の連携研究へ臨み、2023 (令和 5) 年度は新たに見出された論点を整理し、連携モデルとして集約した。その結果、以下を導いた。

エンドオブライフ期における、家族や(本人亡き後の)遺族とのかかわりをテーマとして抽出した。精神障害を長年有した高齢者の死に対し、近しい者はときに安堵すら覚え、そうした自らへの葛藤から喪の作業の遅延をきたし得る。スピリチュアルケアと宗教的ケアの適応をわきまえ(精神科治療学 39(2), 225-232)、本人が「死後なお生きている」ように接すべき場合がある(精神科治療学 38(10), 1209-1213) ことを提起した。

こうした対応は、認知症者を含む連携場面でのピア活動(地域ケアリング 25(4), 54-58) のなかをはじめ、教育場面(人間教育と福祉 12, 27-40)においても視野に入れられてよい。次いで非認知症高齢精神障害者に関しては、児童領域と通底する虐待予防・対応がテーマとなり、メゾレベルのコミュニティ・ソーシャルワークとマイクロレベルの家族内の関係調整がチームアプローチの鍵にあげられる(精神科治療学 38(12), 1457-1462)。さらに、地域に開かれた連携モデルにおいては、ソーシャルワーク機能を医療職や心理職(地域ケアリング 25(14), 60-65)あるいは養護教諭(健康相談活動学 第1章3節, 44-45)などに委ねる選択肢も考慮される。

また、昨年度の「政策を通した連携」における検討を、国家資格・認定資格間のジェネリックスペースシフィック関係(地域ケアリング 25(10), 58-63)ならびに高齢・知的障害領域のソーシャルポリシー教育(人間教育と福祉 12, 27-40)の見地より加えた。

過去2年の発展的論点であるオンライン型と対面型の質的研究にかかわる方法上の異同については、2023 (令和 5) 年度から挑戦的研究(萌芽)へ移行のうえ代表者として、独立させたテーマ設定(課題名: オンライン型インタビュー調査を、質的研究の手段に根拠づける半構造化面接法の開発)のもと研究を進めていく。

ホームページ : 大学院生活科学研究科 生活科学専攻 研究者情報

https://kyoiku-kenkyudb.omu.ac.jp/html/100000648_ja.html

researchmap : <https://researchmap.jp/heart>

KAKEN : <https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000020388797/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 30件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 39(2)
2. 論文標題 医療と宗教をまたぐ世界で期待に応える術と心得 臨死のスピリチュアリティと宗教的ケア	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 38(10)
2. 論文標題 精神科医が引き受けるべき喪失の悲嘆 死してなお生きる高齢者：予期悲嘆(本人)と死別悲嘆(遺族)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1209-1213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 12
2. 論文標題 「刑事司法と福祉の連携」からみた社会福祉学の構造 ソーシャルワーク教育・社会福祉教育の曲がり角	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間教育と福祉	6. 最初と最後の頁 27-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(4)
2. 論文標題 認知症者へのスティグマ軽減と受容的態度に向かう、専門職の変容過程 肯定的意識・否定的意識とリフレーミング	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 54-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(10)
2. 論文標題 医療との架橋役割による精神保健福祉士・社会福祉士共通基盤の可能性 「こども家庭ソーシャルワーカー」認定資格を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 38(12)
2. 論文標題 児童虐待予防にかかわる「こども家庭ソーシャルワーカー」の機能 地域連携(社会福祉士)と親支援(精神保健福祉士)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1457-1462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(14)
2. 論文標題 児童虐待対応における精神保健福祉士・社会福祉士によるソーシャルワーク機能の特徴 疾病性と事例性、親支援と地域連携	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 60-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 家族のメンタルヘルスを通じた健康相談活動と精神保健福祉の出会い 子供から親への目線・親から子供への目線	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 90-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡朋子, 大西次郎	4. 巻 21(4)
2. 論文標題 ホワイトボード機能を用いた認知症ライフサポート研修のオンライン化 対面型の従来研修経験者に対する試行から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 564-575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 ソーシャルワーカーによるソーシャルワーク機能「普及」の意義 実践を通じた連携・政策を通じた連携	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 72-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 21
2. 論文標題 社会福祉士新カリキュラムにおける刑事司法の拡充からみた福祉の独立性 ソーシャルワーク教育・社会福祉教育の曲がり角	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ソーシャルワーカー	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 24(11)
2. 論文標題 オンライン型と対面型インタビューの質的調査における実施(選択 / 併用)の概況 コロナ禍以降の『社会学評論』『社会福祉学』誌をもとに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 24(10)
2. 論文標題 歴史を踏まえた、学際による養護学(広義)の構築 養護機能における連携・協働と役割開放	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 37(4)
2. 論文標題 フラストレーション理論(ローゼンツァイク) アグレッションの方向からみた看取りにおける適応的反応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 427-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 本岡 悟, 大西次郎	4. 巻 30
2. 論文標題 医療ソーシャルワーカーが業務のなかで霧散させる感情としての「とまどい」に着目する臨床的有用性 認知症高齢患者の家族支援を手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保健医療社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51017/jsswh.30.0_65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 24(4)
2. 論文標題 特養の看取り介護における経時的フラストレーション反応 良い実践にも、そこに至る過程がある	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 コロナ禍においてこそ取り組むべき、医療機関内 / 機関間連携を育むソーシャルワーク実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 40-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 「精神保健福祉」通史研究の好機 精神保健福祉士内部の議論への期待	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 教育の場で「養護機能」が求められている 学際による養護学(広義)の構築	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本養護教諭教育学会誌	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 20
2. 論文標題 累犯高齢者・知的障害者の再犯防止に対する社会福祉士の関与と独立 「刑事司法と福祉の連携」から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソーシャルワーカー	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 23(12)
2. 論文標題 オンライン型と対面型インタビューの質的調査における方法論的相違 『社会福祉学』直近3年の研究動向とともに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 64-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 23(10)
2. 論文標題 本人と周囲の間柄からみたパーソナリティ障害の理解と対応 カテゴリー(DSM-5)特性の立体的把握	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 23(4)
2. 論文標題 福祉職の立場からみた不安症(神経症)の理解と対応 不安の性状と社会適応から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 90-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 36(3)
2. 論文標題 標準的精神科医が心得るべき、精神保健福祉士・社会福祉士と刑事司法の連携強化の実像 触法精神障害者(精)、累犯高齢者・知的障害者(社)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 319-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 刑事司法との連携からみた社会福祉士新カリキュラムにおける精神保健福祉士との比較 対象としての累犯高齢者・知的障害者と触法精神障害者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 精神保健福祉士の固有性における原点的強調の可能性 ソーシャルポリシー面の特異性と刑事司法領域の連携から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 8
2. 論文標題 医療との架橋役割に再認される精神保健福祉士の存立意義 PSWにおけるSW回帰との対比	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神保健福祉学	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 35(11)
2. 論文標題 若手臨床医との協働からみた精神保健福祉士・社会福祉士の新たな専門職像 地域共生社会の実現(精・社)と医療ユーザーの自己決定支援(精)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1261-1267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 22(12)
2. 論文標題 精神保健福祉士の固有性における発展的解消の可能性 ソーシャルワーク回帰と名称独占資格間の連携から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 22(9)
2. 論文標題 精神保健福祉士養成における(精神)医学教育の再評価 医療ユーザーの自己決定支援を担う専門職として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 86-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 22(4)
2. 論文標題 自我障害からみた統合失調症者の理解と居宅生活支援 インボランタリークライアントの視点とともに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 精神保健福祉学における“学際”のありか 「病院で精神保健福祉‘士’学，地域で社会福祉学」なのか
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第11回学術研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 社会福祉学は「分割」を免れたのか？ 2定点構造再考
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第71回秋季大会【特定課題セッション】(課題テーマおよび趣旨全文の公開のみ)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 「精神保健福祉」通史研究の試み 精神科領域単独の国家資格化を経た、現代のソーシャルワーク回帰と地域での役割開放
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第10回学術研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 社会福祉学は質的調査のオンライン化をどう受け入れるか、その普及を前に整理する
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第70回秋季大会【特定課題セッション】(課題テーマおよび趣旨全文の公開のみ)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 ソーシャルワークから今一度、ソーシャルポリシーへ 司法と福祉の連携から
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第69回秋季大会【特定課題セッション】(課題テーマおよび趣旨全文の公開のみ)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 非認知症高齢精神障害者の在宅生活を支える福祉と医療の連携
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第68回秋季大会【特定課題セッション】(課題テーマおよび趣旨全文の公開のみ)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大西次郎 / 一般社団法人 日本健康相談活動学会・編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ぎょうせい / 健康相談活動学 実践から理論,そして学問へ . 第1章 学問としての健康相談活動, 第3節 健康相談活動の原理と哲学	5. 総ページ数 2
3. 書名 9) 精神保健福祉学からみた子供 当然交わるはずであった健康相談活動と精神保健福祉	

1. 著者名 大西次郎 / 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会・編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 近現代資料刊行会 / 社会事業史学会創立50周年記念論文集 第2巻 . 福祉対象の把握と支援の視座	5. 総ページ数 31
3. 書名 「精神保健福祉」通史 精神科領域単独の国家資格化を経た,現代におけるソーシャルワーク回帰と地域での役割開放	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 進一 (OKADA Shinichi) (20291601)	大阪公立大学・大学院生活科学研究科・教授 (24405)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂下 玲子 (SAKASHITA Reiko) (40221999)	兵庫県立大学・看護学部・教授 (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関